サバティカル期間における研究経過・成果報告書

2024年4月16日

国立大学法人茨城大学長 殿

所属・職名 教育学部・准教授

氏名 渡邊 將司

下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。

サバティカル制度を利用した期間

2023年4月1日 ~ 2024年3月31日

①研究経過について

(利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)

4月：研究計画に関する意見交換

5月～6月：ニューカッスル大学で実施している学校介入研究のワークショップへの参加

7～11月：介入校への訪問(不定期)

12月：介入後測定の見学

1～3月：日本における学校介入計画の立案(茨城県教育委員会と連携予定)

*期間を通して、自身が保有するデータを用いた論文執筆活動を行った。

②研究成果について

(目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)

申請者が科研費を活用しながら実施している追跡調査から、アクティブな高校生を育むために、①小学校期における適度な体力・運動能力の獲得と、②高校期における運動機会(中高強度運動)の獲得の必要性が浮かび上がってきた。今回、学校における運動介入研究を精力的に行っている、ニューカッスル大学(オーストラリア)にて、その実施方法や手続きについて学ぶ機会を得た。そこでは、小学生を対象にして上級生が下級生に運動を教える、スキルだけでなくリーダーシップを育もうとするプロジェクト(Learning2Lead)と、高校生を対象にして体育の授業の準備運動にインターバル運動を取り入れて体力向上とメンタルヘルスの改善を図ろうとするプロジェクト(Burn2Learn)に関わることができた。これらのプロジェクトを日本において適用すべく、茨城県教育委員会と連携をとって、まずは2024年度に日本版Burn2Learnを実施する計画である。

空いている時間には、日本で収集したデータを論文化した。一つは幼児とその保護者を対象とした運動介入研究で、ボール運動スキルの向上を図った研究である。その結果は国際誌であるJournal of Motor Learning and Developmentに投稿し、現在は査読中である。もう一つは現在取り組んでいる追跡調査のベースラインのデータを用いた横断研究である。先行研究よりも厳密な方法や基準でデータを収集し相互の関係性を明らかにした研究は、ニューカッスル大学のDavid Lubans教授とも意見交換しながら共同研究として国際誌であるJournal of Sports Sciencesに投稿した。現在は査読中である。

オーストラリアで実施されている学校介入プログラムを日本に持ち込むことができ、さらに多くの海外研究者とも新たなネットワークを築くことができた。加えて、国際誌に2編の論文を投稿できたことから、非常に実りのある期間を過ごすことができた。

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

<p>③その他の特記事項 （サバティカル制度に対する意見、今後の希望なども記入して下さい。）</p>	<p>オーストラリアは1月から学期が始まるため、学校介入研究の計画立案の段階から関わるができなかった。現在のところ、本学のサバティカル制度は年度をまたぐことができないことから研究に支障をきたすことがあるため、より柔軟な期間選択ができるようにした方が有益であると感じた。</p> <p>英語の壁は予想以上に高かった。英会話教室(オンライン英会話を含む)や教材を用いた英語学習に長く時間を充てて準備をしてきたつもりだったが、オーストラリア独特のイントネーションや会話スピードについていくのは難しかった。サバティカル期間の前あるいは最初に、現地の語学学校に数か月通えるようなことができているならば、もっと情報を獲得できたかもしれない。</p> <p>いずれにしても、サバティカル制度は、海外研究者とのネットワークの構築と論文執筆の生産性を高めるために非常に重要な制度であると感じた。こういった制度を廃止している大学も増えてきているので、茨城大学はどうか維持していただきたいと思う。それは本学で働く教員にとって一つのモチベーション維持になるかもしれない。</p>
---	---

※表面については、本学のウェブサイトで公表しますので、支障のない範囲で記入して下さい。